

2025年年末手当満額獲得闘争交渉経過

中央本部は10月27日に第2回交渉、11月10日に第3回交渉を行い、「2025年度年末手当の要求の根拠」を主張しました。

組合の主張

- ・「輪軸組立作業における問題」からの信頼回復に向け全組合員で取り組み努力してきた！
- ・7月の豪雨や線状降水帯が発生し、大幅な列車遅延の中で、安全・安定輸送を維持し努力してきた！
- ・若い組合員は、今の賃金では自立して生活できない。物価の高騰が続き生活が厳しい！
- ・若年層の離職者が後を絶たず、優秀な人材の離職防止の為に労働条件・職場環境の改善を！
- ・輸送量は昨年を上回り第1四半期決算では、連結・単体ともに経常利益の黒字転換を果たすことができた。

いまこそ満額回答をされたい！

会社の主張

- ・会社として、社員の頑張りを見ていないという事は絶対がない。列車遅延対応などの社員の頑張りは受け止めている。
- ・会社としても、離職問題の認識はある。退職者を出さないという点では労使で一致している。会社としてメンター制度をプランナー職群で導入した。
- ・今年度採用は予定数に届いていない。また、経験者採用の通年採用枠を拡大している。引き続き、採用数の確保に努めていく。
- ・収入動向で示した通り、収入は前年から増加しているが、鉄道事業の収入計画は未達で楽観できない。
- ・組合の主張は受け止めるが、期末手当は業績給という位置づけには変わらない。半期の業績・足元の動向・社員の頑張りを見て判断する。

1. 6ヵ月台の壁を越えられるよう社内で議論する

会社の主張に対し、組合は以下の主張をしました。

組合

「1. 6ヵ月台の壁」の根拠は何か。今回（第3回交渉）においても、我々と会社との考えには大きな乖離があることが明らかとなった。改めて会社の考えは到底受け入れることはできない。

回答指定日には誠意ある回答を示すこと。

会社

上半期の決算において、対前年30億円の改善ができたことは社員の努力であり感謝する。最近の年末手当は1.6ヵ月台で推移していたが、前回の夏季手当は6半期ぶりに1.6ヵ月台を越えており、今年末手当も1.6ヵ月台を越えていきたいという考えである。

青年部員のさらなる結集で、年末手当満額獲得のために、現場から声をあげていこう！